

合田佐和子展

帰る途もつもりもない



2



4



3

もう帰る途もつもりもなかった——晩年の手稿に残した言葉のとおり、立ち止まることなく作風を変化させ、激しくも華やかな生涯を駆け抜けた美術家・合田佐和子（1940〜2016、高知出身）。

1965年の個展デビュー以来、合田はオブジェや絵画、写真といったメディアを横断しながら制作活動を展開しました。69年以降は唐十郎や寺山修司による演劇の舞台美術



1

Goda Sawako: A Retrospective

やポスター原画を手掛けるなど、その表現はアングラが隆盛した時代の空気を体現するに至ります。しかし、90年代からはそれまでの退廃的な作風を脱ぎ捨て、内省に基づく独自の制作論の実践へと移行。作品はバステル調の色彩に彩られ、まばゆい光に満たされていきます。



6

男性作家が大多数を占めていた時代において、社会通念や因習にとらわれない自由奔放な暮らしのなかで花開いた合田の表現は、ファッションや映画、音楽などの領域と高い親和性を示し、様々な分野の表現者から熱く支持されました。一方で、同時代の美術動向や批評の言説からは距離をとり、ひとつのスタイルに留まらずに繰り返し広げられた仕事は、美術の「正史」への位置付けが困難であるがゆえに個人的・趣味的なものと思われ、正当に評価されてきたとは言い難い側面があります。

本展は作家の没後初にして、過去最大規模の回顧展です。現代美術やサブカルチャーの文脈に依拠しない合田の作品群は、その劇的ともいえる作風の変遷をも含め、無二のオリジナリティに支えられています。本展では、初期のオブジェから初公開となる晩年の鉛筆画シリーズまで、300点を超える作品や資料を体系的に検証し、美術家・合田佐和子の全貌に迫ります。



8



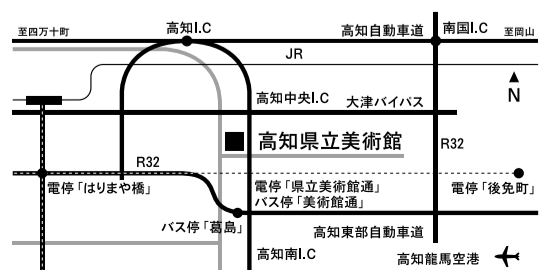
7



Goda 2003

- 1 《鏡の中》1974年、JEANS FACTORY 蔵
- 2 《ワニ》1974年、JEANS FACTORY 蔵
- 3 《眼と唇》1967年、富山県美術館蔵
※3点全て同題・同制作年・同所蔵
- 4 《Watch-Angels》1964年、高知県立美術館蔵
- 5 《90度のまなざし》2003年、横山知雄氏蔵
- 6 《ポーラ・ネグリの眼》1988年、個人蔵
- 7 《ばらの天地創造》1997年、高知県立美術館蔵
- 8 《ワニタマゴ》1987年、高知県立美術館蔵

※作者はすべて合田佐和子



●とさでん交通路面電車「はりまや橋」から「ごめん」「領石通」「文殊通」行きで15分、「県立美術館通」下車徒歩5分●高知龍馬空港からは、高知市内一空港間を結ぶとさでん交通の空港連絡バスがご利用いただけます。バス停「葛島」で下車徒歩約16分●車・タクシーをご利用の場合はJR高知駅から15分、高知龍馬空港から20分、高知インターから10分（高知東部自動車道方面からは降りられません）、高知中央インターから3分、高知南インターから10分

高知県立美術館 THE MUSEUM OF ART, KOCHI
〒781-8123 高知市高須353-2
TEL 088-866-8000 / FAX 088-866-8008 moak.jp